



ミツカン水の文化交流フォーラム2009

開催のご案内

アクアツーリズム

—これからの観光資源と水文化—

都市への人口集中が進む中、持続的な地域づくりが各地で模索されています。それに伴い「訪れてよし、住んでよし」という視点から、水・水路・里川・暮らしと水文化といった水にかかわる事柄が、観光資源として見直されようとしています。これまで、水文化は主に定住者が「使いながら守る」と考えられていましたが、ヨソモノである観光客が水の価値を発見する機会が増えると、地域における人と水とのかわり方はどのように変わるのでしょうか。

本フォーラムでは、水文化を観光資源として成功しているケースを紹介し、アクアツーリズムの可能性について考えます。

日時：2009年10月7日（水）14時～

会場：東京ウィメンズプラザ

東京都渋谷区神宮前5-53-67 電話03-5467-2377



神崎宣武
旅の文化研究所



橋爪紳也
大阪府立大学教授



陣内秀信
法政大学教授



石森秀三
北海道大学教授

【問題提起】

水文化は観光の未来を拓くか？

アクアツーリズムと次世代ツーリズム

石森秀三 北海道大学教授

飲める水と生食文化

旅の歴史と未来

神崎宣武 旅の文化研究所

なんでもないものの発見

テックスロー（地産地消）で地域力を引き出す

陣内秀信 法政大学教授

水都大阪の再生

環境先進都市とアクアツーリズム

橋爪紳也 大阪府立大学教授（アイウエオ順）

【討論】

ツーリズムが作り守る水文化とは

コーディネーター：神崎宣武 登壇者：石森秀三 陣内秀信 橋爪紳也

なお、プログラムは予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

本フォーラムへの参加申込は、2009年8月24日（月）より

ホームページ（<http://www.mizu.gr.jp/>）にて受付を開始します。

■水の文化33号予告

特集「ダシ（出汁）」(仮)

「ダシ」は日本ならではの調理文化を育むとともに、ローカルな風土を反映しています。忙しさや嗜好の変化の中で、忘れられがちなダシ文化を、もう一度見直し、その現代的な意味を発見します。



水の文化 Information

ミツカン水の文化センターが、第11回日本水大賞・厚生労働大臣賞を受賞しました

今後も引き続き、よろしく願い申し上げます。

『水の文化』に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、「人と水のかかわり」に焦点を当てた活動や調査・研究などを紹介しています。ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根差した調査や研究などの情報がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください

<http://www.mizu.gr.jp/>

水の文化バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。

すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

機関誌『水の文化』へのアンケートを、ホームページからも始めました

当アンケートへのお答えは、機関誌制作やフォーラムの参考にさせていただきます。どうぞ、ご協力をお願いします。

「水にかかわる生活意識調査」2009年度版を追加しました
さまざまな場面で、データとしてお役立てください。

編集後記

◆ 治水を辞書で見ると、「洪水等の水を防ぎ、また水運や農業用水の便のため、河川の改良保全を行なうこと」とある。水害との闘いはインパクトがあるために、治水といえば洪水対策のように思われがちであるが、本来的には、利水も含んだ上での「治水」だということを実感した。(新)

◆ はじめまして！今号の製作途中より、水の文化センターに仲間入りをしました。担当一発目から機関紙のテーマは「治水」という、素人には難しいもの。内容確認の段階から悪戦苦闘してしまいました。とはいえ、学生時代に勉強していた分野と繋がりが多々あるこの機関誌。今後、なにか新しいエッセンスを自分なりに注入できるようにしたいです。(忍)

◆ 先人たちが造った石積みを見て、如何に水を獲得するのに苦労があったのか、改めて水のありがたさを感じずにはいられない。この石積みで現代の生活者にも是非見してほしいと思う。それにしても成富兵庫おそるべし！(ゆ)

◆ 利水あつての治水。これが本号のメッセージ。治水をめぐる現代の行政課題を解く教訓を、水利事業の視点はもっている。結局のところ、水利事業は里川工学のことなのだ、と気づかされた。(中)

◆ 日本の川には、自然と人間が織り成す総合芸術の香りがする。放置すると人の命を奪いかねない危険な水を、人間の知恵と技術によって、暮らして潤いをもたらすものに変えている。この緊張感と瑞々しさのハーモニーは、三面張りの川からは聞こえない。安全の代償とは、こういうものなのだろうか。(緒)

◆ 筑後川が逆流する姿を目の当たりにして自然の強さに立ちすくんだ。これが25kmも遡るといって、地図で追うと筑紫平野の大部分は標高5m以下。ほとんどの平野部がこの力に対処しなければならぬ。ここでは水とのつきあい方が根本的に違うのだと肌で感じた。(力)

◆ 洪水は怖いけれど、肥沃な土地には欲が出る。まさにリスクと恵みのせめぎ合いのうちに歩んできたのが人の歴史だ。チャレンジもなく防戦一方のところには、文化は生まれない。(賀)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化

第32号

ホームページアドレス
<http://www.mizu.gr.jp/>

禁無断転載複写

発行日 2009年(平成21年)7月

企画協力 沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信 法政大学教授
鳥越皓之 早稲田大学教授

編集制作 新美敏之 百瀬友美 忍田理加 小林夕夏 中庭光彦
緒方大輔 賀川一枝 中野公力 賀川督明

発行 ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川1-22-15 茅場町中壘ビル9F
株式会社ミツカングループ本社 広報室内
Tel. 03(3555)2607 Fax. 03(3297)8578

ミツカン水の文化センター 事務局

〒104-0043 東京都中央区湊1-13-2 アリス・マナーガーデン11F
Tel. 03(3552)7504 Fax. 03(3552)7506

お問い合わせ